

ならの食育未来ワークショップ 報告書

|     |  |
|-----|--|
| 日 時 | 平成30年9月16日（日）14:00～17:00   |
| 場 所 | 奈良市保健所・教育総合センター（はぐくみセンター）3階大会議室  |
| 事業名 | ならの食育未来ワークショップ<br>目的：市民が食に係る地域課題を共有し、今後取り組んでみたい取組について意見交換を行い、今後の奈良(市)の食育推進の基盤とし、活動にいかす。<br>主催：奈良市 協力：奈良市食育ネット  |
| 参加者 | 42名 市民、奈良市食育ネット参加者、学生等   |
| 内 容 | <p>奈良市の食文化や農業、地産地消、栄養バランスといったテーマを地域の食の担い手や奈良市食育ネット参加団体の皆さんと一緒に考えるワークショップを開催した。</p> <p>挨拶 奈良市医療政策課長 杉本宜弘<br/>奈良市食育ネット代表 岩橋明子氏</p> <p>1、奈良市食育ネットの説明 奈良市食育ネット代表 岩橋明子氏</p> <p>2、奈良市の現状について 医療政策課 管理栄養士 谷田順子<br/>奈良市「食育」に関する意識調査（平成30年度）の結果から課題となっている事柄を示した。なお、本ワークショップは農林水産省の助成を一部基礎としていることから、農林水産省提出書類の目標項目を中心に提示。<br/>・朝食～夕食で主食・主菜・副菜をすべてとる割合が1日2回以上の割合。<br/>・地産地消を推進する上での必要点（地場産表示など）<br/>次に、近畿大学農学部の学生らから、奈良市食育ネットの各参加団体の活動紹介カードを用いて、「取組区分」及び「対象年齢区分」に注目し、活動状況について分析した結果の報告があった。</p> <p>3、ワークショップ<br/>「ひのひかり」「ことか」など、6つの班に分かれて2つのテーマ「普段の食生活や食環境の問題点、ならの食育で大切にしたいこと」、「栄養バランスの改善や食文化の継承、地産地消などを実践するために必要と思う取組や支援」に関して、班ごとにフセンを模造紙にはっていき形で意見をだしあい、意見交換した内容を班ごとに発表した。</p> <p>4、講評、まとめ<br/>それぞれの班で多種多様な意見がでたため、各班の模造紙を会場に並べて貼り、討議形式でさらに意見交換した。朝食の欠食や外食など普段の食にかかる活動や生活で感じていることなど多くの意見がでた。イベントタイトルに「食育」より「奈良の魅力」などわかりやすい言葉を使う方がよいといった意見もあった。普段直接会う機会のない方とテーマを掲げて意見交換するのが楽しく有意義であったという意見が多くでた。全体まとめでは、代表の岩橋氏から、一つの課題に対して、何か一つの取組で全てが解決するということではなく、地域全体で少しずつ少しずつ前進していくことで全体がよくなっていくと話された。また、ご参加いただいた奈良の食の担い手の皆さんからも一言ずつ、ワークショップの感想をいただいた。NPO 法人奈良の食文化研究会の瀧川会長からは、参加者からでた多くの取組内容を、個々でなく皆で一緒に取り組める場を持てれば素晴らしいのではないかと、との意見があった。</p> <p>学生、農業従事者、医療関係者、栄養士会、食文化継承団体、飲食店、地域で食育活動をされておられる方など、20歳～80歳まで幅広い年齢層で、かつ地域も多様な方の意見交流があった。</p> |

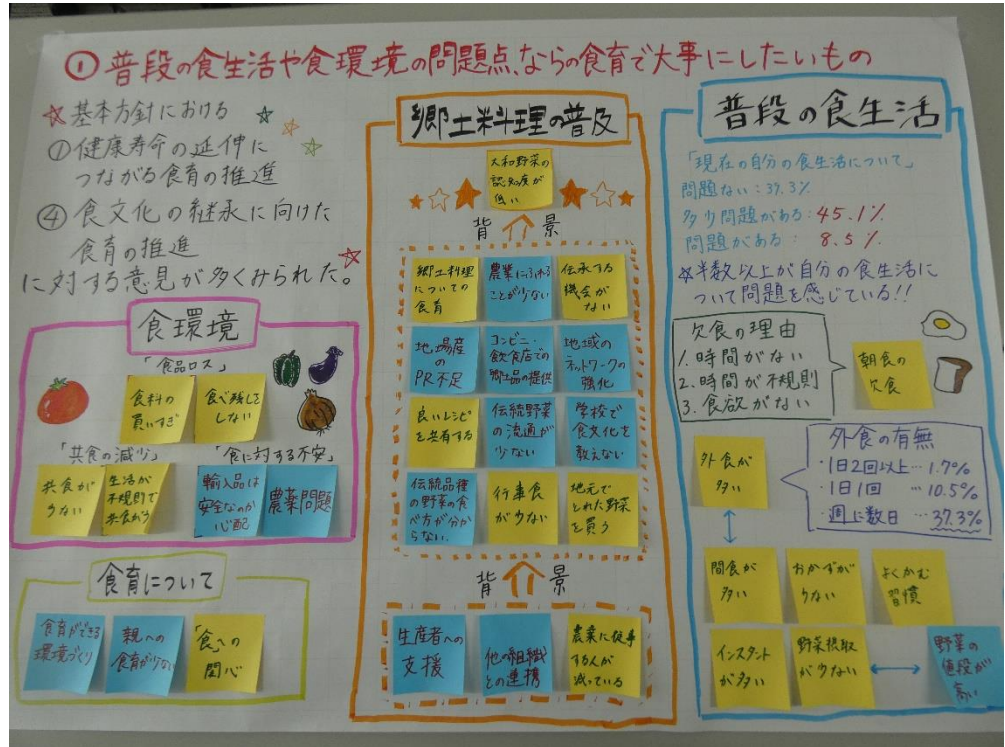
アンケート結果：別紙（回答 39 名、回収率 89.7%）

ワークショップ各班詳細結果：別紙

ワークショップ全体まとめ

6つの班で意見を分析し、テーマごとに再度1枚にまとめた（近畿大学農学部食品栄養学科管理栄養士実習生作成）

テーマ①「普段の食生活や食環境の問題点、ならの食育で大切にしたいこと」



結果

テーマ②「栄養バランスの改善や食文化の継承、地産地消などを実践するために必要と思う取組や支援」



|           |   |
|-----------|---|
| <p>評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に申し込みされた方が全員参加され、参加者らの高い関心が伺われた。このようなワークショップは回を重ねるごとに意見が深まり、その都度参加される方で意見も異なるので、今後、テーマに応じ、定期的な開催を検討したい。</li> <li>・参加者アンケート結果から、参加者全員が「とても満足」「満足」と答え、満足度が高かった。2つのテーマを設け、全員が参加型にしたことや、最後のまとめでも意見ができる機会を設けたこと、多種多様な属性（年齢層や活動地域、職業など）の方が参加されたことで全体の満足度が上がった。</li> <li>・奈良市食育ネットと企画から打ち合わせを重ねたことで、各グループの進行やまとめが比較的スムーズに行われた。進行役が初めての方で、参加前に不安に感じる方もおられたが、大学生が各班でサポートする体制を整えたことで当日は楽しく参加された。</li> <li>・朝食の欠食や外食・コンビニ食に対する現状の課題が多く聞かれた。</li> <li>・大和野菜への期待が高かった。弁当はじめ加工品などの要望も多く聞かれた。</li> <li>・地産地消の考え方について、アンケート結果から、県境に住む方はどのように考えたらよいかという意見もあった。</li> <li>・イベントタイトル含め、広報は改善の余地があり次回検討したい。</li> <li>・奈良市を生活圏にしている方から他市でも開催してほしいという意見もあり、他市の協力が得られるようであれば前向きに検討したい。</li> </ul> <p>ならの食育は、奈良市だけではなく、奈良県全体で考える必要がある。奈良県の食育担当者とも連携し、県域でリードしながら、本開催を考えていきたい。</p> |
| <p>備考</p> | <p>9月21日、日本農業新聞にならの食育未来ワークショップの記事が掲載された。</p>  |

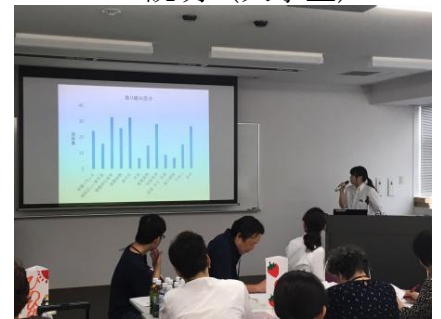
あいさつ（岩橋氏）



司会（呉服氏）



説明（大学生）



ワークショップの様子

ひのひかり班



古都華班



うめ班



大和まな班



大和茶班



大和丸なす班



## 発表と討議の様子



## 集合写真～ありがとうございました！～

